

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム にこにこひがしやま (やまゆり)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900074		
法人名	株式会社 いわい		
事業所名	グループホーム にこにこひがしやま (やまゆり)		
所在地	〒029-0302 岩手県一関市東山町長坂字北磐井里187-3		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和2年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・当たり前に行なえて事が、当たり前に行なえるように支援しています。</li> <li>・地域、家族とのつながりを大切に、地域行事や夏祭り等を通じて交流し、住み慣れた環境で安心して暮らせるように支援しています。</li> <li>・その人の心の中にある「ふるさと」をずっと大切にしていきます。</li> </ul>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、元特別養護老人ホームであった施設を改修しての2ユニットのグループホームであり、職員が知恵を出し合い、使い勝手よく工夫しながら利用・運営をしている。開設当初に作成した、「おもてなしの心」を柱とする理念に沿って、職員は、利用者それぞれの「その人らしさ」を大切にしながら、「何でもしてもらおう利用者」から「できることはする利用者」を目指し、方向性と目線を合わせて支援をしている。とりわけ、「職員が楽しくないと利用者も楽しくない」を職場のモットーとし、事業所で力を入れている5つの担当制(行事、教育、環境装飾、メニュー、広報)を通じた、職員の前向きな取り組みは、利用者や家族からも評価が高く、事業所の強味といえよう。これからも、職員の心を1つにしたこの取り組みを期待したい。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年7月13日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム にこにこひがしやま (やまゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ企業としての理念とグループホームの理念をスタッフルーム、玄関に掲げ共有し実践に取り組んでいる。	理念は、玄関や共有スペースに掲示し、職員それぞれが目を通して認識を深めるほか、ケースカンファレンスでは、4項目の事業所理念について、利用者ごとにケアプラン見直しの際、常に理念に沿って検討している。職員の理念共有は、概ね出来ていると認識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動に入居者様と一緒に参加している。地域行事への参加や文化祭への出展等行っている。日常的には、施設周辺の畑仕事等をして来ている地域の方や東山荘の入居者様と挨拶や会話をしたりされている。	隣近所の方々と普段挨拶を交わすほか、事業所が立地する地域だけではなく、旧東山町全域との関わりを大切にしているから、小学校や中学校のみならず地域をあげた祭りや文化祭などに参画し交流している。大半が、立地する地域からの利用者で密着度が高い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人クラブの定例会へ参加し、必要に応じてお話しする機会を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をもサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、現状の報告や相談を行っている。様々な立場からの色々な助言を頂き、サービスの向上に活かしている。	推進会議は、利用者と家族(代表)が参加して、隔月に定例開催されている。時々には、交通事故や救急搬送などテーマとする内容も盛り込まれ、有意義な会議として運営されている。委員からは、「地下水の漏出」が心配であるとの声が出され、対策を検討・対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実績やケアサービスに関しては運営推進会議の場で報告している。台風等の際には行政から助言や地域情報の提供を頂いている。	主に推進会議の参加を通して、指導や助言、意見交換をしている。必要時は、直接、担当者が役所支所に出向いて書類等を提出している。普段は、電話やファックス、メールで連絡を取り合う円滑円満な関係となっている。介護相談員の訪問も定期的に行なわれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社の各事業所の管理者が構成員となり身体拘束廃止委員会を設置し3か月に1度会議を行っている。年に2回勉強会も行い、会社全体で身体拘束を行わないよう取り組んでいる。	適正化の指針を作成し同廃止委員会を設置して全職員で身体拘束をしないケアに目線を合わせて取り組んでいる。特に言葉による拘束(スピーチロック)については、制止や否定など声のトーンも含めて、細心の注意を払っている。玄関の施錠は夜間を除き行っていない。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこひがしやま (やまゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待のマニュアルを整備している。職員同士意識しながら虐待がないよう取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行っている。また、必要に応じて活用できるように関係者と相談しながらすすめている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、不安や疑問がないようにしている。改定等の際には都度説明を行い、不安や疑問がないよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルスの影響で、文書での開催となっているが、昨年度までは家族会の会長、副会長が運営推進会議の構成員であったが、今年度からは全ご家族様の交代制とし、年1回は運営推進会議に出席していただけるようにしている。	普段の面会だけでなく、広報紙「にこにこだより」(年4回)を発行し生活の様子を伝えている。春の花見や秋の敬老会に合わせて家族会も併せて開催し、家族の意見や要望を伺うことにしている。「職員による通院同行について」意見要望が出され、当面、その方向で対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からは日常的に質問や意見があれば話してもらっている。出た意見については両ユニットの管理者、必要に応じては会社内の他事業所の管理者とも相談しながら検討している。	定期的な面談を年2回実施している。「職員が楽しくなければ、利用者も楽しくない」を基本に、報・連・相を徹底して、何でもいつでも話しやすい職員関係となっている。「休暇のとり方」など勤務体制について、意見が出され、出来るものから、早め早めに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課を行い、評価は本人にも面談の際に話している。就労環境の整備に関しては、管理者会議の場で検討したり、状況に応じて管理者同士で相談している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこひがしやま (やまゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のレベルに応じて外部研修を申し込んでいる。介護福祉士等資格の取得に関しても、研修費用の負担や受験対策勉強会の実施等会社が支援してくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会参加やグループホーム協会への加入でネットワークづくりを行っている。また、SGグループの他事業所とも連携しサービスの質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人にお会いし状況の把握や思いの確認に努めている。可能であれば入居前にショートステイを利用し本人が安心して利用できるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申請時や入居前に不安な事等話しを伺い、安心して利用できるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネや入院中であればMSWと相談しグループホームの利用が適正かどうか等話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の状態に応じて日常生活の中での役割を持たれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は新型コロナウイルスの影響で面会が出来ない状態となっているが、電話で話しをしてもらう等家族との絆が薄くならないよう心掛けている。		

事業所名 : グループホーム にこにこひがしやま (やまゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は行えない状況となっている。以前のように「会える」「行ける」状況となったら行こうと話をし、忘れないような支援を心掛けている。	隣接のデイサービスに通所している知り合いや親戚、知人の訪問が時々ある。行きつけの美容院やかかりつけの歯科医(ホワイトニング)に行く方も居る。職員は、それぞれの生活歴や家族等からの聞き取り、会話の中から馴染みの人や場などのヒントを得たいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に見守りをしてくれたり、食事介助をしてくれたりされている。また、そのような環境が継続できるような支援を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後の不安を軽減できるよう相談に乗ったり、出来る限りの支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活の流れの中で当たり前に行ってきた事を当たり前に行えるよう生活の中で支援している。	話せる方からは、直接、思いや願いを聴き、思うように話せない方からは、普段の行動や仕草、会話での反応などから推察している。ケアの基本は、本人本位を心がけながら、「やってもらうだけの利用者」から「自らもやる利用者」を目指して、職員皆で支援に当たっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネ等から話しを伺い、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様個々の意思を尊重し、その方が望む生活が送れるよう心掛けている。その中でどこまで出来るのか、何に戸惑っているのかを見逃さないよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等でケアのあり方について話しあっている。ご家族からは受診等で来所された際や電話等で相談し意見を伺っている。	担当制を取り、利用者の身の回りの気づき目配りを徹底している。毎月のモニタリングは、各担当者が資料をとりまとめ、計画作成担当者を中心に行われている。定例3ヵ月でケアプランを見直している。それぞれの担当の意見やアイデアは、非常に有効であるとしている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこひがしやま (やまゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノート等で皆が情報共有できるよう取り組んでいる。また、介護記録をもとに介護計画の見直しや評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスを利用されていた方がグループホームを利用される事も多い。使い始めで不安な時等、使い慣れたデイサービスへ顔を出したり、職員の顔を見て安心される事もある。必要に応じて協力してもらいながら、利用者様が安心してサービスを利用できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(お祭り等)の際には案内をもらい参加している。また、趣味の作品を文化祭へ出展したくさんの人にみてもらう事で喜ばれていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居後もいままでのかかりつけ医の受診を継続してもらっている。基本的には家族対応の受診のため、状況を手紙で報告したり必要に応じて受診同行し適切な医療が受けられるよう支援している。	事業所の都合によるかかりつけ医の変更はない。通院の同行は、家族を基本にししながら、家族の都合や容態急変の際には、職員同行で対応している。かかりつけ医のみならず、協力医である県立磐井病院や県立千厩病院とも連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が非常勤であるため、前回出勤時以降の様子を看護記録にまとめ、スムーズに看護がうけられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報(暮らしのシート)を作成し病院へ提出している。早い段階から面会したり医師、看護師に話しを伺い、早期に退院出切る取り組んでいる。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこひがしやま (やまゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を確認している。また、医療機関とも相談しながら対応を検討している。	看取り指針を作成し、医療機関や家族等の協力等が整えば、事業所での看取りも考慮している。入居時に、本人・家族の意向を確認し、事業所での対応に同意を得ている。事業所は、重度化した場合や終末期に向けた勉強会を行うなど、出来ることを出来るところまで、職員全員が全力で対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習を受講し対応に備えている。実際利用する事もあったが、混乱する事なく使用出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間5回の避難訓練を実施している。昨年、一昨年と台風の際に避難も行っている。	運営推進協議会委員である区長に尽力いただき、地域住民の防災協力隊(10人)を結成し、その協力を得ながら避難訓練を実施している。春と秋の年2回の定期的な総合訓練のほか、夜間想定(薄暮時)訓練を3回ほど実施している。職員は、消火訓練や救急訓練(AED)も経験している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束の勉強会の中で再確認している。日々の関わりの中で職員同士意識しあいながら取り組んでいる。	日常のケアを通し、人生の先輩である利用者から、地域の風習や料理などを教えてもらう中で、利用者に対する尊敬の気持ちを伝えている。事業所の理念である「おもてなしの心」の下に禁句マニュアルを作成し利用者の尊重とプライバシーを守る意識を常に忘れないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、利用者様の意向を聞き逃さないよう気を付けている。また、自己決定できるような支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今何をしたいのか、可能な限り本人の「今」を大切にしながら支援している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこひがしやま (やまゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事の際にお化粧等行っている。美容関係の仕事をしていた利用者様がいるため、他利用者様にマニキュアをぬってあげる等されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りから片づけまで個々の能力に合わせて一緒に行っている。	食事を楽しめるよう、食材の買い物、下ごしらえ、切る、焼く、味見する、洗う等、その日の状態に合わせて、自由に参加できるよう配慮している。バーベキューをしたり、ユニット毎に外食することもある。最近は気仙沼の回転寿司にでかけてきた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を記録し職員が把握できるようにしている。食事形態や摂取状況等個々の状態に合わせて必要量が摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施している。個々の状態に応じて必要な部分を介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基にそれぞれの排泄パターンを把握している。個々の能力や排泄パターンに応じて介助しトイレで排泄ができるよう支援している。	殆どの方が、何らかの介護用品を着けているが、夜間も含めて基本的に職員の適時適切な声かけにより、トイレでの排泄支援を通じ自立の意識保持に努めている。特に、夜間の排泄時起床の転倒を防止するためセンサーを設置し、防止に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	認知症のマニュアルにて便秘が及ぼす影響について学んでいる。排便を確認したり、起床時に牛乳を提供する等で便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	一人週2回以上の入浴が出来るために予定は立てているが、その時の利用者様の状態や思いに合わせて対応している。一人ひとりゆっくりと入浴を楽しめる事を心掛けているため1日3人程度ずつの予定となっている。	入浴が嫌いな方には、無理強いせず後日に変更するなどして、週2回以上(午後)の入浴を確保し、利用者の清潔を保持している。好みに合わせた入浴剤の利用のほか季節の菖蒲湯、柚子湯などを取り入れている。1人でのんびり入ったり職員と談笑したりして楽しんでいる。	



令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこひがしやま (やまゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で使用していた寝具を持ってきてもらっている。また、自宅で猫と寝ていた方は猫のぬいぐるみと一緒に寝る事で安心して休めるようになっていた。その他室温の調整等気持ちよく眠れるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を基に薬の確認を行っている。服薬時には職員同士確認しながら確実に服薬できるよう支援している。服薬介助時の状況に応じてミスなく介助できるよう職員間で支援の仕方を相談しながら取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や役割を継続し張りのある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分や天気を見ながら外の畑を見に行ったり支援している。行きたい場所を聞いてドライブに出かけたりしていたが、現在は自粛している。	普段の散歩や季節ごとのドライブなど、天候や利用者の気分とも相談しながら、出来る限り外出することになっている。これからも、利用者の希望を叶えるため、常に利用者の希望に耳を傾け、元気に繋げるとともに、家族の協力を得ながら、家族と出かける機会を多くしたいとしている。これまでは、花見や紅葉狩りにもでかけていたが、今年は自粛している。	利用者と家族の絆をより強く、太くするために、家族との連携を深め、協力を得ながら、利用者が家族と一緒に出かけ楽しむ機会を増やすことを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針として金銭の管理は行っていないが、欲しい者がある際には立て替えて購入したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望時には対応している。携帯電話を持ってもらわれている利用者様もあり、自由に電話されている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこひがしやま (やまゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で居心地のよい共有空間づくりを心掛けている。混乱しないよう張り紙をしたり誘導したりしている。	清掃が徹底された明るい光が差し込む共用のホールには、テーブル席やソファ席がゆったり配置され、利用者は思い思いの場所に座って、のんびり過ごしている。テーブルの上には季節の花(紫陽花)、壁にはドライブ写真や季節毎の紙細工(七夕飾り)が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを配置したり畳を置いたりし自分の席以外でも居心地よく過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのタンス等動かさない物もあるが、その中で利用者様が使いやすいよう持ち込みの家具を配置し居心地よく過ごせるよう支援している。	エアコンと利用者の状態にあわせた介護用ベッドやマットレス等が備え付けられている。衣料品を中心に使い慣れた時計や鏡のほか、カレンダー、家族の写真等を持ち込み、好きな所に飾っている。入口には花や名前などを掲げ自室を演出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレまでは矢印をつけたり、居室には名札や目印をつける等して自立して移動できるよう支援している。		